

2014年度 関西学生ヨット個人選手権大会

期 日 : 平成26年(2014年)6月20日(金)～平成26年(2014年)6月22日(日)
 開催地 : 兵庫県西宮市 新西宮ヨットハーバー (〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜4-16-1)
 共同主催 : 関西学生ヨット連盟、兵庫県セーリング連盟
 協力 : 新西宮ヨットハーバー株式会社

帆走指示書

1. 規則

- 1.1 本大会には、『セーリング競技規則』に定義された規則を適用する。
- 1.2 『関西学生ヨット連盟規約』、『470学連申し合わせ事項』、『スナイブ級学連申し合わせ事項(ただし、スナイブ級学連申し合わせ事項I.2は適用しない)』、『艇体への大学名表示に関する学連申し合わせ事項』を適用する。
- 1.3 規則40『個人用浮揚用具』を次のように変更する。
『水上にいる間、衣類又は個人用装備を一時的に変えたり整えたりする場合を除き、競技者は個人用浮揚用具を着用しなければならない。ウェット・スーツとドライ・スーツは、個人用浮揚用具ではない。この項は規則第4章前文を変更している。』
- 1.4 レース公示と帆走指示書が矛盾する場合、帆走指示書を優先する。

2. 競技者への通告

競技者への通告は、大会陸上本部に設置された公式掲示板に掲示する。

3. 帆走指示書の変更

帆走指示書の変更は、それが発効する当日の08:25までに掲示する。ただし、レース日程の変更は、発効する前日の18:30までに掲示する。

4. 陸上で発する信号

- 4.1 陸上で発する信号は、大会陸上本部前に掲揚する。
- 4.2 音響1声と共に掲揚されたD旗は、『予告信号は、D旗の掲揚後60分以降に発する。この信号が発せられるまで、出艇してはならない。』ことを意味する。

5. レース日程

5.1 レース日程とレース数

予定されるレース日程とレース数は次のとおりとする。

日 付	国際470級	国際スナイブ級
6月21日(土)	4 レース	4 レース
6月22日(日)	3 レース	3 レース
合 計	7 レース	7 レース

- 5.2 6月21日(土)は、5レースを行うことがある。
- 5.3 それぞれの日の最初の国際470級の予告信号の予定時刻は09:30とし、国際スナイブ級はこれに続く。
- 5.4 1つのレース又は一連のレースが間もなく始まることを艇に注意を喚起するために、予告信号を発する最低5分以前に、音響信号1声と共にオレンジ色のスタート・ライン旗を掲揚する。
- 5.5 6月22日(日)は13:30より後に予告信号を発しない。ただし、国際470級の予告信号を発した場合には、ゼネラル・リコールがあった場合の新しいスタートの予告信号及びこれに続く国際スナイブ級の予告信号は発する。

6. クラス旗

クラス旗は次のとおりとする。

クラス	旗
国際470級	470旗
国際スナイブ級	スナイブ旗

7. レース・エリア

【添付図B】に、レース・エリアの位置を示す。

8. コース

- 8.1 【添付図C】の見取り図は、レグ間のおおよその角度、通過するマークの順序、それぞれのマークをどちら側に見て通過するかを含むコースを示す。
- 8.2 予告信号以前に、レース委員会信号艇に最初のレグのおおよそのコンパス方位を掲示する。

9. マーク

- 9.1 マーク1、2、3及び4は、オレンジ色の三角錐ブイとする。

- 9.2 指示11に規定する新しいマークは、赤色の円筒形ブイとする。
- 9.3 スタート・マークは、スターボードの端にあるレース委員会信号艇とポートの端にあるレース委員会艇とする。
- 9.4 フィニッシュ・マークは、スターボードの端に位置する青色旗を掲揚したレース委員会艇とポートの端にあるオレンジ色の円筒形ブイとする。

10. スタート

- 10.1 スタート・ラインは、スタート・マーク上にオレンジ旗を掲揚しているポールの間とする。
- 10.2 予告信号が発せられていない艇は、他のレースのスタート手順の間、スタートラインの延長線の風下側およそ50mより離れていなければならない。
- 10.3 スタート信号後4分より後にスタートする艇は、審問なしに『スタートしなかった(DNS)』と記録される。これは規則A4を変更している。
- 10.4 ゼネラル・リコールの際、艇に知らせるため、レース委員会信号艇以外のレース委員会艇にも第一代表旗を掲げる場合がある。ただし、当該レース委員会艇が行う第一代表旗の掲揚・降下については、規則レース信号『予告信号は降下の1分後に発する』の意味は持たないものとし、また音響信号は発しない。
- 10.5 規則30.3の『セール番号』は、『セール番号』又は『エントリー番号』と置換える。

11. コースの次のレグの変更

コースの次のレグを変更するために、レース委員会は新しいマークを設置し、実行できれば直ぐに元のマークを除去する。その後の変更で新しいマークを置換える場合、そのマークは元のマークで置換える。

12. フィニッシュ

フィニッシュ・ラインは、フィニッシュ・マーク上に青色旗を掲揚しているポールと、ポートの端にあるフィニッシュ・マークのコース側の間とする。

13. ペナルティー

- 13.1 付則Pが適用される。ただし、付則P1の『セール番号』は、『セール番号』又は『エントリー番号』と置換える。
- 13.2 規則44.1に基づきペナルティーを履行した艇は、抗議締切時刻内に陸上本部において『ペナルティー認識書』を完成させなければならない。

14. タイム・リミットと目標時間

- 14.1 タイム・リミットと目標時間は次のとおりとする。

クラス	タイム・リミット	マーク1のタイム・リミット	目標時間
国際470級	80分	20分	50分
国際スナイプ級	80分	20分	50分

- 14.2 マーク1のタイム・リミット内に1艇もマーク1を通過しなかった場合には、レースを中止する。目標時間通りとならなくても救済の根拠とはならない。これは規則62.1(a)を変更している。
- 14.3 先頭艇がコースを帆走してフィニッシュした後15分以内にフィニッシュしない艇は、審問なしに『フィニッシュしなかった(DNF)』と記録される。この項は規則35、A4、A5を変更している。

15. 抗議と救済要求

- 15.1 抗議をしようとする艇は、その抗議がレース・エリアで関与したか又は目撃したインシデントに関わる場合、規則61.1(a)に加えて、そのレースにおいてフィニッシュした後に若しくはリタイア又はタイム・リミットとなった場合にはその後に、速やかにG旗を掲揚したレース委員会艇に口頭でその旨を申告しなければならない。ただし、プロテスト委員会がやむを得ないと判断した場合は、この限りでない。
- 15.2 抗議書は、陸上本部で入手できる。抗議及び救済又は審問の再開の要求は、適切な時間内に陸上本部に提出されなければならない。
- 15.3 それぞれのクラスに対して、抗議締切時刻は、その日の最終レースに最終艇がフィニッシュした後又はレース委員会が本日これ以上レースを行わないという信号を発した後、どちらか遅い方から60分とする。レース委員会又はプロテスト委員会によるレース・エリアで目撃したインシデント以外についての抗議は、その委員会が抗議の情報を受けた後60分以内に提出されなければならない。この項は規則61.3を変更している。
- 15.4 救済要求の提出期限は、抗議締切時刻以内又は当該インシデントから60分以内のどちらか遅い方とする。この項は規則62.2を変更している。
- 15.5 審問の当事者であるか又は証人として名前が挙げられている競技者に、審問のことを知らせるため、抗議締切時刻後30分以内に通告を掲示する。
- 15.6 レース委員会又はプロテスト委員会による抗議の通告を、規則61.1(b)に基づき伝えるために掲示する。
- 15.7 指示13.1に基づき規則42違反に対するペナルティーを課せられた艇のリストを掲示する。
- 15.8 指示4.2、10.2、17.1、17.2、17.3、18、19、20、21、22、レース公示、規則77及び付則Gの違反は、艇による抗議の根拠とはならない。この項は規則60.1(a)を変更している。これらの違反に対するペナルティーは、プロテスト委員会が決めた場合には、失格より軽減することができる。

15.9 審問の再開の要求は、次の締切時刻内に提出されなければならない。

(1) 要求する当事者が最終日以外に判決を通告された場合には、翌日の抗議締切時刻内。

(2) 要求する当事者が最終日に判決を通告された場合には、通告後30分以内。

この項は規則66を変更している。

16. 得点

16.1 大会が成立するためには、1レースを完了することを必要とする。

16.2 艇の得点は、完了したレースが4レース以下の場合にはレース得点の合計とし、5レース以上完了した場合は最も悪い得点を除外したレース得点の合計とする。

16.3 掲示されたレース又はシリーズの成績結果の中に誤りがあるとして訂正を要請する場合、艇は陸上本部に用意されている「得点照会要請書」に所定の事項を記入し要請しなければならない。

17. 安全規定

17.1 出艇申告と帰着申告

(1) 出艇申告

当日のレースに出走しようとする艇は、最初のレースのスタート予告信号の80分前から『出艇・帰着申告書』の出艇確認欄に、ヘルムスマン自身がその都度自筆でサインをして陸上本部に提出した後に、出艇しなければならない。

(2) 帰着申告

陸上に帰着した艇は、その都度速やかに、陸上本部に準備された『出艇・帰着申告書』の帰着確認欄に、ヘルムスマン自身がその都度自筆でサインをして陸上本部に提出しなければならない。締切時間はその日のそれぞれのクラスにおいて、最終レースに最終艇がフィニッシュした後又はレース委員会が本日これ以上レースを行わないという信号を発した後、どちらか遅い方から45分とする。レース委員会は、正当な理由がある場合には、その時間を延長しなければならない。

17.2 芦屋海洋体育館から出艇する艇の出艇申告及び帰着申告については、指示17.1(1)(2)を以下に変更する。

(1) 出艇申告

当日のレースに出走しようとする艇は、最初のレースのスタート予告信号の80分前から出艇するまでに、ヘルムスマン自身が出艇する旨を陸上本部に電話連絡をしなければならない。

(2) 帰着申告

陸上に帰着した艇は、その都度速やかに、ヘルムスマン自身が帰着した旨を陸上本部に電話連絡をしなければならない。電話連絡の締切時間はその日のそれぞれのクラスにおいて、最終レースに最終艇がフィニッシュした後又はレース委員会が本日これ以上レースを行わないという信号を発した後、どちらか遅い方から45分とする。レース委員会は、正当な理由がある場合には、その時間を延長しなければならない。

17.3 レースからリタイアする艇は、できるだけ早くレース委員会に伝えなければならない。

17.4 指示17.1(1)(2)、17.2(1)(2)に違反した艇は、PTPと記録し、審問なしにこの違反が認められた日の全レースに+3の得点のペナルティーを課す。ただし、DNFより悪い得点が与えられることはない。またペナルティーが課せられるレースが成立しなかった場合はペナルティーは課さない。この項は規則63.1及びA5を変更している。

17.5 レース委員会は、危険な状態にあると判断した競技者又は艇を救助する。救助された場合、その艇はリタイアしなければならない。この場合のレース委員会の判断の誤りは、艇による救済要求の根拠とはならない。これは、規則60.1(b)を変更している。

18. 乗員の交代と装備の交換

18.1 乗員の交代は、レース委員会の事前承認なしでは許可されない。交代の要請は、最初の妥当な機会にレース委員会に行わなければならない。

18.2 損傷又は紛失した装備の交換は、レース委員会の事前承認なしでは許可されない。交換の要請は、最初の妥当な機会に、レース委員会に行わなければならない。

19. 装備と計測のチェック

19.1 艇又は装備は、クラス規則、レース公示及び帆走指示書に従っていることを確認するため、いつでも検査されることがある。

19.2 水上で艇は、レース委員会イクイップメント・インスペクター又はメジャーにより、検査のために、直ちに指定したエリアに向かうことを指示されることがある。

19.3 帰着後、陸上において指定された艇は、速やかに計測場所に艇を持込まなければならない。

20. 運営艇

20.1 レース委員会艇には、白色旗を掲揚している。

20.2 プロテスト委員会艇は、赤字で「J」と記載した白色旗を掲揚している。

21. 支援艇・応援艇

21.1 支援艇・応援艇は、水上にいる間、大会本部で貸与する識別旗を目立つように掲揚しなければならない。

21.2 支援艇・応援艇は、艇及び運営艇を妨げてはならない。また、レース中の艇に引き波の影響を与えてはならない。

- 2 1. 3 監督、コーチ、その他の支援要員等、その艇の関係者の乗艇している支援艇・応援艇は、指示2 1. 2に加えて、最初にスタートするクラスの準備信号の時刻から、すべての艇がフィニッシュするか若しくはリタイアするか又はレース委員会が延期、ゼネラル・リコール若しくは中止の信号を発するまで、艇がレースをしているエリアの外側にいなければならない。
- 2 1. 4 支援艇・応援艇は、レース委員会及びプロテスト委員会の無線通信を傍受してはならない。また、レース艇の無線機・携帯電話の積み込みはクラス規則により禁止されている。
- 2 1. 5 レース委員会艇に『数字旗8』が掲揚された場合、『支援艇・応援艇は、レースをしているエリアを含む全エリアにおいて、危険な状態にある艇を可能な限り速やかに救助しなければならない。』ことを意味する。この信号はレース中であっても発せられることがある。この場合、指示2 1. 2、2 1. 3及び2 1. 4は適用しない。
- 2 1. 6 レース委員会又はプロテスト委員会は、支援艇・応援艇の指示2 1. 1、2 1. 2、2 1. 3、2 1. 4、2 1. 5の違反を申立てて、その支援艇・応援艇の関与する艇を抗議することができる。プロテスト委員会は、審問においてその支援艇・応援艇が違反したと判定した場合、その支援艇・応援艇の関与する艇にペナルティーを課すことができる。これは、規則6 4. 1を変更している。違反を申立てられた支援艇・応援艇の代表者は、プロテスト委員会から要請された場合、この指示に基づく審問に出席しなければならない。

2 2. ごみの処分

- 2 2. 1 ごみは支援艇・応援艇に渡してもよい。
- 2 2. 2 支援艇・応援艇のない艇は、ごみをレース委員会艇に渡してもよい。

2 3. 賞

- 2 3. 1 賞は次のように与える。

クラス	賞状	賞品
国際4 7 0級	1 位～6 位	1 位～3 位
国際スナイプ級	1 位～6 位	1 位～3 位

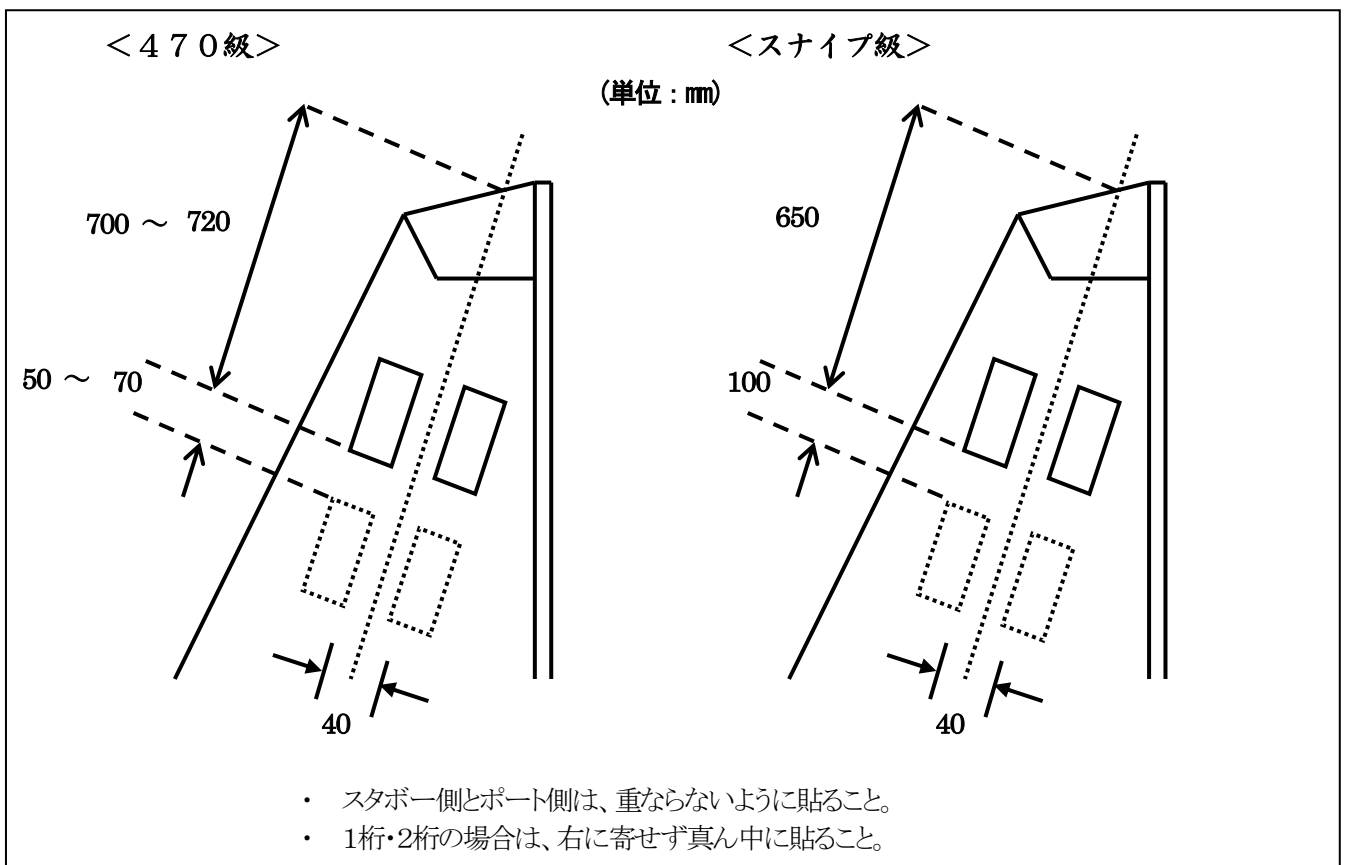
- 2 3. 2 クラス別の第1 位～第6 位の艇に、2 0 1 4年度全日本学生ヨット個人選手権大会への出場権を与える。

2 4. 責任の否認

競技者は、完全に自己の責任でこのレガッタに参加する。規則4「レースすることの決定」参照。主催団体は、レガッタ前、レガッタ中又はレガッタ後と関連してこうむった物的損傷又は人身傷害若しくは死亡に対するいかなる責任も負わない。

以 上

【 添付図 A 】 エントリー番号 貼り付け位置



【添付図 B】 レース・エリア



【添付図 C】 コース見取り図

(コース) スタート → マーク 1 → マーク 2 → マーク 3 → マーク 1 → マーク 4 → フィニッシュ

